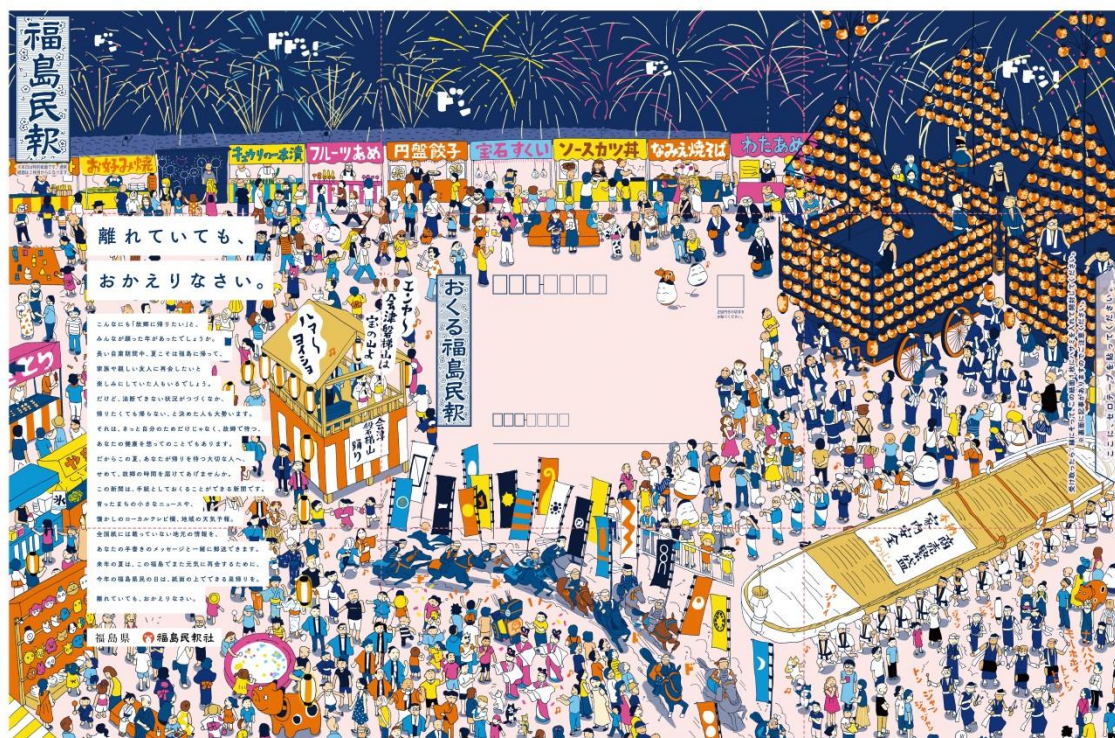


**“離れていても、おかえりなさい”帰りたくても帰れないみなさまへ  
新聞を手紙にし、故郷の時間を届ける“今年ならではの里帰り”を提案**

## **新聞で里帰り「おくる福島民報」今年も実施**

**中止や規模縮小となった“福島伝統行事”がひとつの紙面に**

福島民報社は、福島県民の日である8月21日(金)に、福島県と連携し福島の地元紙である福島民報を県民の手から手紙として全国に届ける「おくる福島民報」を発行いたします。2018年から続く本企画は今年で3年目を迎えました。新型コロナウイルスの感染拡大により、未だ油断ができない状況の中、会いたい人に会えない日々は依然として続いています。帰省したくてもできない今だからこそ、せめて故郷の時間を届けることができれば、という思いから今年も本企画を実施するに至りました。福島民報は、今年ならではの里帰りを提案します。

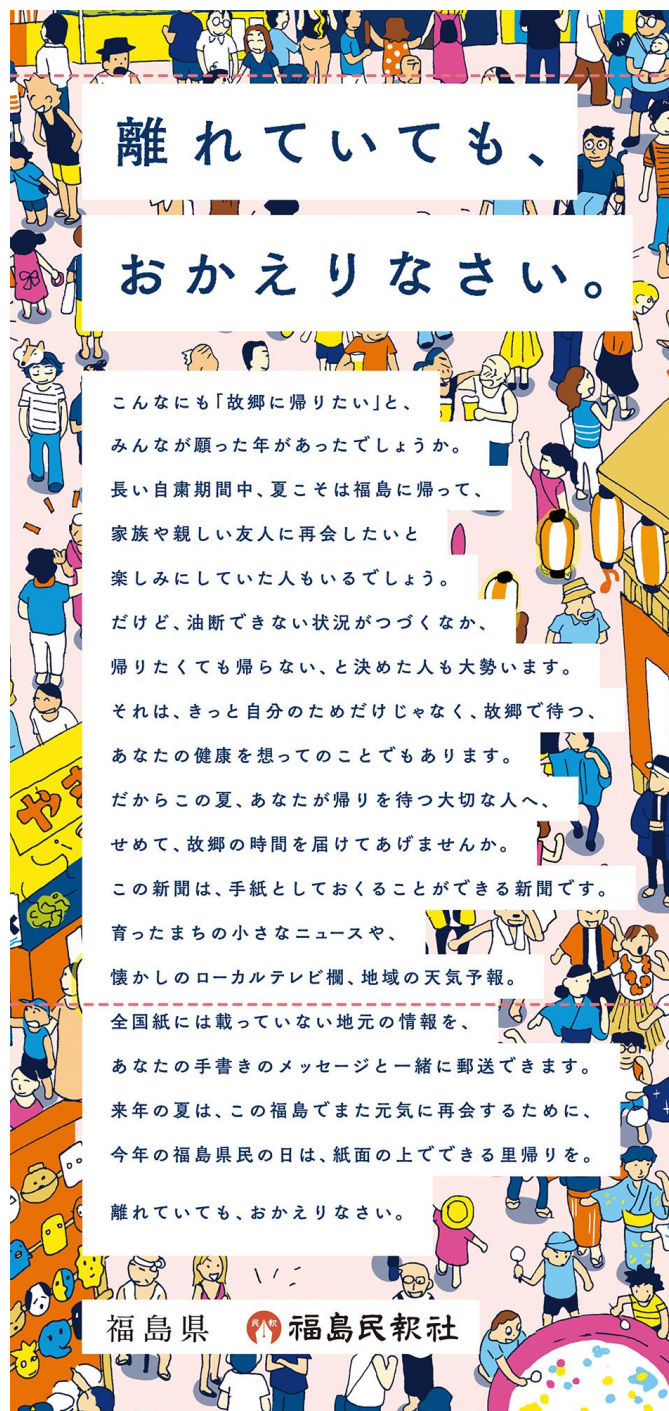


「おくる福島民報」は、福島民報の新聞を手紙サイズに折りたたみ、特別なラッピング紙面で包み、郵送できる仕組みを採用しています。また、新聞の包み紙となる表紙面は、福島の夏の風物詩である祭りや伝統行事をモチーフとし、活気があり温かい本来の福島の姿がデザインされています。

今年の「おくる福島民報」は“離れていても、おかえりなさい”をテーマとして掲げました。昨年度は“イメージの復興”をテーマに、「福島＝震災」というイメージが未だにある中で、県外の人にも福島の魅力を伝えたいという思いを込めましたが、今年は帰省ができない福島県民に、紙面を通して少しでも故郷の時間を届けたいという思いを込めてテーマを設定いたしました。

また、東京にいて、今年帰省できなかった福島県民の皆様や今年里帰りできなかった皆様のために、都内のアンテナショップ・日本橋ふくしま館-MIDETTE(ミデッテ)で本新聞を購入することができます。さらに発行当日、福島中央郵便局にて、「おくる福島民報」を体験できる場所も設けました。

これまで本企画は、日本で最も歴史と権威があるといわれる総合広告賞「広告電通賞」での総合賞での選出や「カンヌライオンズ2019」にてダイレクト部門でブロンズ賞に選出されるなど、多くの方からご支持をいただき機会をいただきました。今後も、県民の思いが伝わるよう引き続き推し進めてまいります。



# 離れていても、 おかえりなさい。

こんなにも「故郷に帰りたい」と、  
みんなが願った年があったでしょうか。

長い自粛期間中、夏こそは福島に帰って、  
家族や親しい友人に再会したいと  
楽しみにしていた人もいるでしょう。

けれど、油断できない状況がつづくなか、  
帰りたくても帰らない、と決めた人も大勢います。

それは、きっと自分のためだけでなく、故郷で待つ、  
あなたの健康を想ってのことでもあります。


だからこの夏、あなたが帰りを待つ大切な人へ、  
せめて、故郷の時間を届けてあげませんか。

この新聞は、手紙としておくることができる新聞です。  
育ったまちの小さなニュースや、  
懐かしのローカルテレビ欄、地域の天気予報。

全国紙には載っていない地元の情報を、  
あなたの手書きのメッセージと一緒に郵送できます。

来年の夏は、この福島でまた元気に再会するために、  
今年の福島県民の日は、紙面の上でできる里帰りを。

離れていても、おかえりなさい。

福島県  福島民報社

8月21日(水)の福島県民の日に配達される福島民報は、包装用の特別紙面が添付されており、折りたたんでメッセージを添えて、本紙をそのまま県外に郵送できる仕組みになっております。

また、「おくる福島民報」には、福島の夏の風物詩である祭りや伝統行事をモチーフとした、包装用の特別紙面が添付されております。今回の紙面は、「福島わらじまつり」「郡山うねめまつり」「東山盆踊り」「相馬野馬追」「じゃんがら念仏踊り」などをモチーフとして、活気と温かみのあるデザインにより“本来の福島”を思い出していただけるようにいたしました。

本紙内では、「県内伝統行事特集 郷土の魂 ここに在り」を特集掲載します。全国各地の夏祭りが中止や規模の縮小を余儀なくされるなか、地域で大切に受け継がれ、愛されてきた祭りや文化を紹介します。祭りの概要のほか、感染拡大を防ぐための今年の対応、また、関係者の声を掲載しています。

<表面デザイン>



<記事内容>



**「おくる福島民報」が東京で購入できるアンテナショップと福島で体験できる福島中央郵便局について**

<日本橋ふくしま館MIDETTE概要>

店舗名：日本橋ふくしま館MIDETTE

場所：東京都中央区日本橋室町 4-3-16

営業時間：平日 10：30～20：00

「おくる福島民報」販売期間：2020年8月21日(金)

※数量に限りがあります。



<福島中央郵便局>

時 間 : 体験時間 10-15 時

場 所 : 福島中央郵便局 (福島県福島市森合町 10-30)

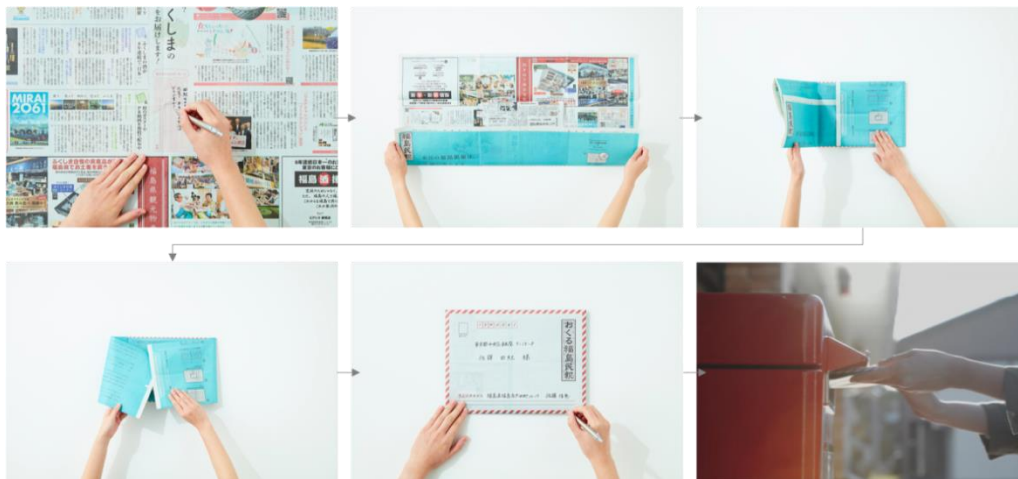
**おくる福島民報とは**

「おくる福島民報」とは、福島民報社と福島県が、2018 年より実施している、福島県民の日(8 月 21 日)に県外にいる県民宛に故郷の新聞を、購読者の手から贈ることができる企画です。

2011 年の東日本大震災から 9 年。福島では、未だに約 4 万 7 千人の県民が県外へ避難したまま (復興庁 全国の避難者等の数調査 2020 年 3 月) 帰れない状況が続いており、避難以外の理由でも福島を離れる県民も数多くいます。本プロジェクトはそうした県外に暮らす福島県民が、新聞を通じて、地元の情報に触れ、故郷を思い出す機会をつくりたいという思いから始まりました。

2018 年度は「里帰り」をテーマに、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故に伴い県外に避難する県民、結婚や就職で引っ越した県民たちに向け、故郷の新聞を通じて里帰りして欲しいという思いを込め、2019 年度は「福島=震災」というイメージが未だにある中で、県外の人にも福島の魅力を伝えたいという思いを込めて実施いたしました。

**<送り方>**



**<2019 年>**

・表面デザイン

■会津地方：磐梯山&猪苗代湖



■県北：桃



■県南：松明あかし



■浜：フラガール



・裏面デザイン



<2018年>  
・表面デザイン



・裏面デザイン



## 福島民報社：コメント

「おくる福島民報」は、東日本大震災、東京電力福島第一原発事故によって、すべての都道府県に避難するという特異な状況が生まれている福島県民が、古里・福島に心を寄せる機会を作りたいという思いがきっかけで始まりました。また、2018年から取り組んでいる「おくる福島民報」ですが、これまで紙面を受け取った人からは「久しぶりに福島を感じた」「自分が福島県民であることを再認識した」など、古里に思いをはせたという感想を数多くいただいております。

今年のテーマは新型コロナウイルスの感染拡大によって、古里に思いをはせる人たちが多いこの夏に福島だけでなく、全国の人たちが、「故郷に帰りたい」と思いを寄せる夏だと思い、「離れていてもおかえりなさい」をテーマに致しました。地方紙は、古里を感じることができる新聞のため、今年は改めて、この「おくる福島民報」を実施する大切さを感じています。加えて、夏の風物詩を楽しむことができなかつた県民読者も大勢いる中で、地元読者にとっても喜んでもらえるような紙面づくりを目指したため、グラフィックテーマは「祭り」に決定いたしました。県内各地を写す様々な祭りを一堂に介した様子は、福島らしい夏を表現したと思っており、協力いただいた漫画家スケラッコさんには大変感謝しております。

## 過去の「おくる福島民報」受賞歴

### ● 昨年の「おくる福島民報」の受賞歴

- ・ Cannes Lions 2019  
ダイレクト部門ブロンズ&ファイナリスト  
メディア部門ファイナリスト
- ・ ADFEST 2019  
ブランドエクスペリエンス部門シルバー  
ダイレクト部門 ファイナリスト
- ・ 広告電通賞  
総合電通賞  
アクティベーション部門最高賞  
プリント部門金賞  
フィルム部門銀賞
- ・ JAA 広告賞 | メダリスト
- ・ JAAA 若手大賞 | 優秀賞
- ・ TCC 新人賞

■ WEB ムービーURL : <https://youtu.be/ri1Mhhbc2Es>